

所在地：兵庫県朝来市 選定年月日：平成26年3月18日 面積：963.4 ha 選定基準：二(一)(六)(七)(八))

(1) 概要

但馬(たじま)と播磨(はりま)との境に位置する生野では、古くから鉱山開発が進められました。開坑は大同2年(807)と伝わりますが、史料での初見は『銀山旧記(ぎんざんきゅうき)』であり、天文11年(1542)に但馬守護職の山名祐豊(やまなすけとよ)が石見銀山から採掘・製錬技法を導入したとされています。江戸時代には口銀谷(くちがなや)・奥銀谷(おくがなや)等に灰吹小屋が立ち並び、生野の町は隆盛しました。明治になると近代技術が導入され、昭和48年(1973)の閉山まで、我が国有数の鉱山として機能しました。閉山後もスズの製錬及びレアメタルの回収が現在まで行われており、特にスズの製錬量は我が国有数の規模を誇ります。

生野市街地には、鉱業都市を示す要素が数多く分布しています。かつて物資の輸送路として活躍した馬車道やトロッコ道は、現在も主要道路として交通の軸線を形成しています。また、製錬滓をブロック状に固めたカラミ石は、民家の土台や塀、水路など至る所で用いられています。かつて鉱山に関わる信仰として行われた山神祭は、現在はへいくろう祭等とその精神が引き継がれており、鉱山町における生活と密接に関わる習俗・伝統が、現在も継承されています。

このように、生野鉱山及び鉱山町の文化的景観は、鉱山開発及びそれに伴う都市発展によって形成された文化的景観であり、現役の鉱業都市として生産活動及び祭等の習俗を継続しつつ、トロッコ道跡やカラミ石の石積みなど鉱業都市に独特の土地利用の在り方を示しています。



口銀谷全景



地区を貫く市川及び右岸のトロッコ軌道跡

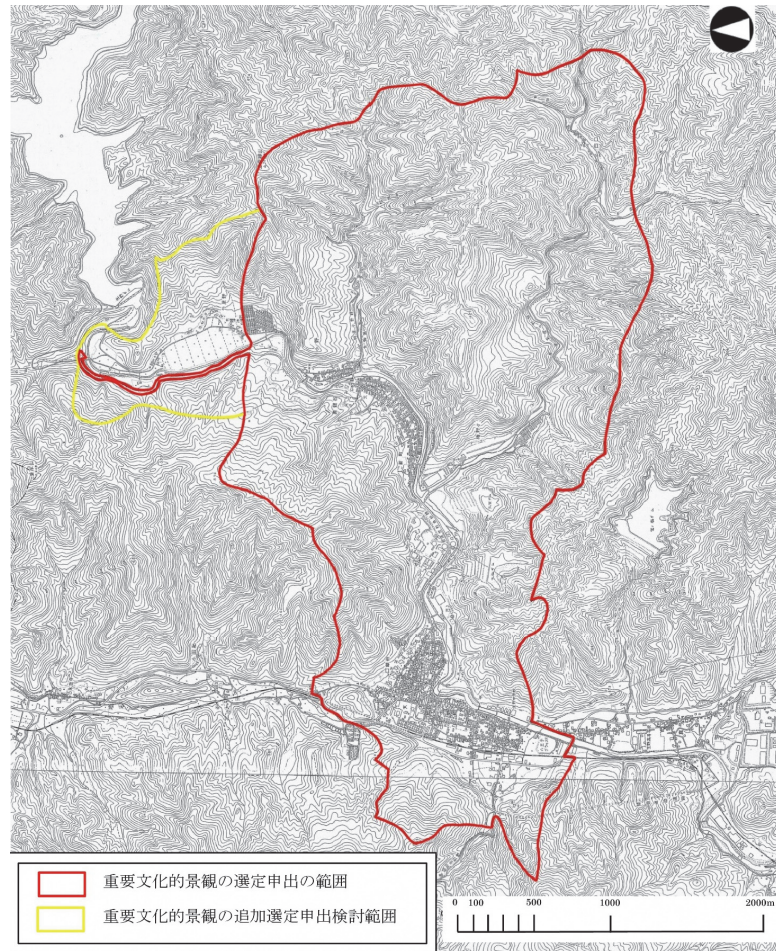


カラミ石の石積み



口銀谷の町並みと銀谷まつり

（２）選定範囲



- 重要な構成要素：69件
- 国指定等文化財：日下旅館、松本家住宅、佐藤家住宅別邸、桑田家住宅、今井家住宅、旧吉川家住宅、綾部家住宅（登録有形文化財（建造物））

（３）選定による効果

昭和48年（1973）の生野鉱山閉山後、地域住民が企業と一緒にあって鉱山町の文化や風習を受け継ぎ、景観を残す努力を重ねてきました。

選定後は、その景観や風習をより多くの人に知ってもらうため、観光客や海外旅行者がともに楽しめる催しを実施、その拠点施設として重要な構成要素が活躍しています。

また、この重要文化的景観を核としたストーリー「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道～資源大国日本の記憶をたどる73kmの轍～」が、平成29年に日本遺産に認定され、生野地域だけでなく兵庫県を南北に縦断する関係市町による広域的な連携事業を進めています。



昭和の鉱山町を再現した「銀谷祭り」



日本遺産ルートを走るサイクリングイベントの開催

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 生野鉱山と鉱山町の文化的景観保存調査報告書(平成22年3月、朝来市)
- 生野鉱山及び鉱山町の文化的景観保存計画（平成23年3月、朝来市）
- 生野鉱山及び鉱山町の文化的景観整備計画（平成28年3月、朝来市）
- ホームページ

<https://www.city.asago.hyogo.jp/site/kyoiku/1589.html>

（５）活用事例

事例28-01 ①

民間活用を踏まえた、鉾山町のシンボル修理

文化庁補助金

●行政による取り組み

生野町内には、江戸時代の山師や地役人の住宅跡、明治から昭和にかけての鉾山職員社宅や病院跡、警察署などが残っており、住民と対話を重ねながら整備を行ってきました。

江戸時代の大山師の邸宅である「吉川家住宅」は、設計段階から地域住民の意見を取り入れ、観光拠点『生野まちづくり工房「井筒屋」』として整備しました。管理運営も住民による運営委員会にて行われており、多くの観光客が訪れています。その活動が認められ、平成27年に「第9回産業観光まちづくり奨励賞」を受賞しました。

また、生野鉾山町のシンボルとの一つである明治時代の「旧海崎医院」は、長く空家であったため老朽化し、倒壊の危険性がありましたが、地域の協力のもと修理を行い、毎年、見学会や鉾山町を会場とした「銀谷祭り」の舞台として活躍しています。

同様に補助金を活用して改修した、鉾山職員宿舍甲5号・6号社宅は賃貸住宅として地元団体が管理・活用するほか、市の補助金を活用して、地区の公民館として活用されてきた旧生野警察署を「朝来市文化的景観整備管理委員」のアドバイスを受けながら、地域住民とともに改修を行いました。旧海崎医院に続き旧生野警察署の改修についても地域住民の参加により、地域で文化財を守っていく気運の高まりが感じられます。

他にも重要文化的景観街区内の建物の状態調査（健康診断）についても、地域住民と朝来市が協力しながら継続的に実施し、調査結果を整備計画の資料として活用しています。

✓ 第9回産業観光まちづくり奨励賞(平成27年)

団体等情報： 生野まちづくり工房井筒屋
<https://www.izutsu-ya.com/>



俳優・志村喬が生まれ、幼少期を過ごした鉾山社宅群を記念館として整備



観光客でにぎわう
「生野まちづくり工房井筒屋」



一区公民館として活用されている
旧生野警察署



鉾山町のシンボルの一つとして明治期の姿を残す旧海崎医院。
地域住民と一緒に修理工事を実施



① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり
・

（５）活用事例

事例28-01 ②

地域おこし協力隊が描く、新たなエリアプロモーション

●住民や団体等による取り組み

鉱山町の文化的景観を有する生野で、その重要な構成要素である旧生野鉱山職員宿舎「甲社宅」をゲストハウス(IKUNOSTAY)として活用する新たな取り組みが、いくの地域自治協議会に所属する南アフリカ出身の地域おこし協力隊によって行われています。オープン後には自治協議会によって「クリエイイト生野(株)」が設立され、創造性豊かで持続可能な地域づくりが目指されています。

ゲストハウスは、増え続ける空き家を抱える文化的景観の保全・活用のために、市が所有・整備・運営をしている甲社宅のうち2棟を使って始めました。外国人の地域おこし協力隊がホストとなっていることもあって、海外から宿泊利用者が約6割を占めています。「鉱山町独特の景観」と「日本の日常風景」を楽しんでもらうことをコンセプトにし、長期滞在にも対応可能な施設となっています。宿泊業に加えて、プロモーション映像の作成、オオサンショウウオグッズの特産品開発、サイクリングツアーや鉱山町ガイドとの連携などにも取り組んでおり、地域課題の解決とともに地域の活性化につながっていくことを目指しています。

鉱山町である生野は、全国各地から鉱山従事者がやって来たことから「受け入れる風土」が文化として根付いていると言われていました。明治時代の初め、日本の近代化を図るために多くの外国人技師を受け入れた生野ですが、令和には外国からの地域おこし協力隊という新たな活力を得て、地域変革の可能性を期待させてくれています。



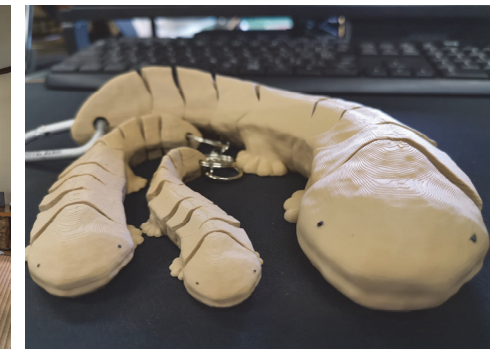
外国人に人気の「IKUNO STAY（甲19号社宅）」



明治時代の生野町章をモチーフとした
IKUNO STAYのシンボルマーク



鉱山社宅の雰囲気を残した客室



特別天然記念物のオオサンショウウオを
3Dプリンターで制作したグッズ

団体等情報：イクノステイ <https://www.ikunostay.com/?lang=ja>

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり
・